

なつやすみ 目標達せず 虫の声

夏の長いお休みが終り、2学期が始まりました。気温が32~33°と聞くと「今日はずいぶん涼しいらしい」と思ってしまうような、猛暑、酷暑の夏でした。まだまだ暑い日もあるでしょうが、朝夕の風、昼間でも木蔭を通り抜けてくる風は、すっかり心地よくなりました。朝の光が庭の木々に射し込み、風がそよよと葉っぱを揺らすと、「今日」という大切な秋の一日が始まります。

夏に立てた目標が満足のいく成果を得られなかったとしても、そこに向かったことは確かなことであり、今の「私」は夏の日の贈り物です。

子どもたちもきっとそれぞれらしい今年の夏を過し、新たな自分としてまた園での生活を始めたことでしょう。

思い通りいかなかったところは仕切り直して次の目標となり、体験したひとつひとつは活かに、この夏を過した意味はこれからやってくる「いつの日か」とつながっていて人生の支えや励ましになることでしょう！

夏休みさいごの年長さんのお泊り会で、私は「火の神」と「南の島の王さまハハハ」になりました。キャンプファイヤーで登場するや、「えんちやうや！」の声があがりますが、静かに語り始めると真剣に耳を傾けてくれます。

退場して戻ると「やっほし えんちやうや」なんてささやいています。

誕生会のトルルや オオカミ、豆まきの時の鬼も同じですが、そんなふうには日常的に、こっこや見立てをして生きられるということはすごいことです。

夢見る力はやがて夢と現実を結ぶ力へと変わっていきます。

いのちあふれるファンタジー(構想力)から、生きいきとした知性が生まれてくるのでしょう！

この夏の冒険が、夢見たことが、どんな果実となって実るのか楽しみです。

『人生 フルーツ』というドキュメンタリー映画があります。

「風が吹けば、枯葉が落ちる。枯葉が落ちれば、土が肥える。土が肥えれば、果実が実る。こっこつ、ゆっくり。人生、フルーツ。」と、ナレーションが流れます。

住宅公園の職員として都市計画に携った建築士。風の通り道となる雑木林を残したニュータウン計画を目指すものの、経済最優先の社会の中で許されず……。ニュータウンの一角に雑木林を育て、それに囲まれた一軒家で「野菜・フルーツを」ご馳走に老夫婦のゆたかな暮らしを始めます。「家は、暮らしの宝宝箱でなくてはいけない」というコルビュジエ(建築家)の言葉を指針として……

人生のどの時期も、ひとつひとつ その時として大切であり ゆたかであり、かけがえのない意味があると同時に、いつの日かの未来につながっているはずです。

この夏の冒険が、夢見たことが、秋の静けさの中でメタモルフォーゼをとおげて確かなものに、次へとつながるものになって生まれてくることでしょう。

一人ひとりの「私」の夢が、私自身を新たなものへと育て、何かいのちある出来事を生み出し、社会をゆたかにつむいでいくことを、共に今年の秋も感じ合うことができることを願っています。

園長 介光 泰雄